

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875001501		
法人名	医療法人社団 恕和会		
事業所名	カルム箕谷		
所在地	兵庫県神戸市北区山田町下谷上字かんじや7番3号		
自己評価作成日	令和元年12月5日	評価結果市町村受理日	令和2年2月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和2年1月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの個性を尊重し、個別のケアを重視している。 ・地域の一員として安心安楽で穏やかな生活が送れるよう支援している。 ・母体である松田病院、すずらん病院、また、併設の訪問看護ステーションと連携し、日々の体調管理、健康面の把握、異変の早期発見、急変時の早期対応を行っている。 ・地域交流の一環で併設のデイサービスで催されるボランティアの出し物を観に行く機会を持ったり、トライやるやボランティアの受け入れを行っている。 ・庭で実る野菜の収穫、調理、四季折々に咲く花々、行事や外食で五感に良い意味で刺激のある生活環境を整えている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設15年で、近隣の住宅や店舗ともおなじみとなり、ボランティアや中学校のトライやるウィークを受け入れるなど地域との繋がりは深まっている。玄関もユニット出入口も昼間は施錠せず、身体拘束しないケアを実践している。食事会を兼ねた年2回の家族会には8割超の家族が出席し、事業所からは毎月入居者の写真入りで様子を伝える葉書を家族に送って喜ばれている。普段の食事では彩りが悪ければ一品追加するなどの工夫をしている。入居者は準備や片付けをしたり、恵方巻を巻くなど自ら調理を楽しむこともある。近くの買い物やカフェでのお茶、散歩コースへのお出かけに始まり、花見やどうぶつ王国を楽しむなど多様な外出機会を用意している。母体病院や併設の訪問看護等、医療連携体制を活かして看取りにも取り組み、安らかな最期を迎えて頂いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホーム カルム箕谷

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	初心に戻れるよう、身に付けている名札の裏に理念を入れ、いつでも確認できるようにしている。開設以来理念は変更しておらず、地域医療に根ざした創設者(松田病院)の思いを引き継ぎ実践している。	事業所運営の理念と7項目の基本方針をユニットの壁等に掲示し、名札の裏にも入れ、折に触れて職員と確認し共有するようにしている。職員が業務を進めている中で迷ったり困ったりしたときは理念と基本方針へ立ち戻るように図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣の方や店舗スタッフと挨拶を交わし、施設の存在を認識してもらっている。今年は地域のボランティアやトライやるの受け入れも行った。今後も継続し、関係作りに努めていく。	近くの住民や店舗との交流があり、入居者がふれあい喫茶に参加している。裏山からの出水対策を巡り地域や近隣の人と話す機会が一層増えた。今年は地域のボランティアにプランターの世話等をしてもらい、トライやるウィークで中学生を5日間受入れた。	地域との交流も年々深まっていることを踏まえ、ボランティアを含め近隣の人々を事業所主催のイベントに招いて交流することも今後は取り組まれるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でヒヤリやアクシデント等の報告を行っており、どういことが起こるのか、こういときはどう対処したのか等報告し、委員に持ち帰って拡散してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	スライドショーにて入居者の日ごろの様子を紹介している。また、事故報告以外にも近況等報告し、それについての質問や意見、助言等々いただき、運営やサービスに反映させている。	運営推進会議には住民代表としての民生委員と自治会役員、地域包括支援センター職員、知見を有する者及び入居者と家族代表が参加して、活動状況や事故報告などを聞き、活発に情報交流と意見交換を行なっている。家族からの要望も出され対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の手続き等は郵送ではなく市担当者に直接お渡ししている。わからないこと等は電話でアドバイスをいただいている。機会あるごとに相談をさせてもらっている。	裏山の水路からの水害とその対策工事等の問題や、近くをバイパスのトンネルが通る計画のこともあって、市役所には頻繁に出かけて話をしており、事業所の担当課とも直接相談したり指導や助言をもらっている。地域包括支援センターとも日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、計年4回の身体拘束廃止の委員会を開催し、議事録を各フロアに回覧している。研修も年2回は必ず実施し職員全員で理解を深め、ケアに生かしている。	職員が手薄になる夜の時間帯を除き玄関もユニット出入口も開錠している。入居者の出入りはチャイムを活用し確認する。危険防止のため家族の了承のもと2人の方に離床センサーとセンサーマットを使っているがカンファレンスで毎回必要性を見直している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度は全員参加での研修を実施。日ごとのケアの見直し、振り返りを行い、不適切なケアを防止すべく意識を持って取り組んでいる。待遇で気になる部分があれば、発展しないよう個々に注意喚起している。	1年に身体拘束2回、虐待防止1回の研修を全職員が受講する。不適切なケアや言動を見聞きしたら注意しミーティングで振返る。職員のストレスが虐待に繋がることを踏まえ、日頃から心の健康に気を配ると共に外部委託でセルフチェックを行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修として、権利擁護の制度について資料を作成し知識を深める機会を持った。また、新規入居の契約時に成年後見制度について触れ、希望があればパンフレットもお渡ししている。	去年まで成年後見人の付いている入居者が居たが亡くなられた。昨年度は権利擁護の制度に関する勉強会的な内部研修を行った。今年度は認知症介護実践者研修の修了者が権利擁護に関する制度の研修内容を持ち帰り伝達研修を行う予定である。	権利擁護に関する制度のニーズは今後ますます高まると予想されます。今後は専門家による研修も行って職員の理解を深め、相談等にも対応していかれることを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は質問できる時間を含み時間をかけて行っている。契約して帰ったあとも疑問、質問が出てくればいつでも連絡して下さるようお願いしている。	契約時には重要事項説明書と契約書等を読み上げ2～3時間かけて丁寧に説明している。いつまでみてもらえるかとの質問も多く、「終末期の医療体制及び看取りに関する指針」を説明し納得を頂いてから入居してもらっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からいつでも意見、要望等受け付けている。運営推進会議においていただいた意見を検討し、反映できるかどうか検討した上、結果を報告する体制を取っている。	運営推進会議への出席時や、年2回開催し8割を超える出席率の家族会等で利用者・家族から意見や要望をもらい対応している。最近では事故データ集計の提案や要介護度に関する資料の取り扱い方への要望を受けて対応するなどした。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや年2回の面談だけでなく意見があれば随時上げてもらっており、検討してどうなったか、どうするか結果を返すようにしている。	意見の言いやすい職場環境が醸成されている。会議前にはスタッフルームに職員が気付きやアイデアを記すペーパーを1枚用意し、出欠に拘らずよく記入されている。最近では実務者研修受講の非常勤への拡大やレクリエーション担当方法の改善等の対応を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時期の面談で聴き取りを行い、管理者から代表者へ伝達、検討し、提案や助言を職員に返している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内研修に随時参加でき、外部では実践者研修(今年は無し)、その他の研修、また、介護福祉士取得に向け実務者研修受講の推進、貸付制度も行い、スキルアップしやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	神戸市北区のグループ連絡会にて同業者間で運営や制度に関することなどについて意見交換し、現場の参考にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には話しやすい雰囲気心をかけて面談を行い、趣味嗜好や困り事、望む暮らし等々の聴き取りを行う中で、コミュニケーションの取り方に留意しつつ、入所後も不安にならないよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた段階から家族の思いを聴き取っている。申込から入所に至るまで、またその後も適度にお話する機会を設け、相談、検討を繰り返し、信頼関係を築くため努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に聴き取りを行い、何を望んでいるのかを感じ取り、ニーズを見極めて、グループホームでできることは何かをチームで検討し、周りにも協力を求めながらよりよい支援を目指して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に、できることはやっていたくことを基本とし、共同生活の中で、入居者同士助け合ったり、職員が忙しくて困っているときは助けてもらったり、生活を共にしている実感がある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力が必要な時は事情を説明し協力を呼びかけている。困ったことがあればどう対処すべきかを相談、意見をいただいて対応策を検討し、実践後の達成感を一緒に味わってもらっている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かつての同僚や近隣の方が尋ねて来られ、帰り際に再訪をお願いしている。また、よく通っていた近所のラーメン屋さんや喫茶店、お墓参りに家族と一緒に出かけられている。	入居者が併設のデイサービスセンターで旧知の利用者と会ったり家族と馴染みの店に行くこと、近隣や職場での昔なじみの方が訪問してくれることを支援している。地域のふれあい喫茶、近隣のカフェ等に職員が同行して新しい馴染みの関係作りにも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症や視力、聴力の程度によっては人と関わるのが難しい場合や、人と関わるのが苦手な方などは、職員が間に入り円滑にコミュニケーションが取れるよう調整している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で暮らす家族にスーパーで出会って近況を語ったり、病院等で出会い、故人を懐かしみつつ話す事もある。今年は昨年看取った家族が1周忌に尋ねてきて下さった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントを元に入居後も話の中や普段の言動、表情から本人の求めているものをできる限り読み取り、本人主体のケアをチームで相談し導き出すよう努めている。	契約時のアセスメントを元に、日常生活の会話、表情、動作からも希望、意向を汲み取っている。介護支援ソフトを活用し、全職員は勿論のこと訪問看護他12か所のパソコンから情報を取る事ができる。入居者主体の介護をチームで導きだしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報では知りえない部分が入居後に出てくるがあるので、家族や前ケアマネに以前の様子等情報収集し、原因を探求、チームで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者は昨日できたことができなくなったり、できなかったことができたりと日々変化している。職員は様子をよく観察し、気づいたことを記録、申し送ってチームで共有し、現状把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者にとって何が必要なのか、どうすれば尊厳ある生活を守れるのか、家族の意向も踏まえながら入居者目線でカンファレンスを行い、計画に反映できるよう内容を精査している。	入居者の目線でカンファレンスを行っている。何が必要なのか、尊厳のある生活を守れるのか、一番大切なのはどういう事か等を入所前の生活、習慣が再現、継続できるように精査し、介護計画を作成している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に沿って実践し、モニタリングを行い、継続か、見直しかを検討するのはもちろん、日々の記録で気になることは業務日誌に上げて申し送り、検討事項としてチームで話し合っってプランに反映している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入居者に柔軟に対応している。入居前に大事にしていたペットとの交流をお願いして笑顔を見ることができたり、外へ出たいと希望されれば仕事を調整して外出し地域交流をしている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	北区で活躍している方に尺八やフルート等の演奏の場を提供し、入居者には歌で参加してもらっている。身の回りの品を買いに近隣スーパーに行ったり、運営推進会議に参加し、地域住民と話す機会を持っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を希望される方は今年度にはおられず、母体の松田病院の外來もしくは訪問診療を受けてもらっている。歯科は希望により往診に来てもらっている。	契約時に入居前の主治医か、協力病院なのか選択してもらっている。往診医師は月2回の往診、皮膚科の往診は月1回、訪問歯科は月1回ある。また、生活の状態に変化がある時は毎日、理学療法士の意見、指導もある。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤明けが入居者の特変事項をパソコンの共通の申し送りに上げ、看護師が確認しに来てくれる。また、日中に異変があった場合はナースに連絡し見てもらったり指示を仰ぎ、必要であれば受診に繋げている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2つの母体病院の各地域連携室とまめに連絡を取り、現状把握や退院に向けての準備等々、情報交換している。普段の外來受診や訪問診療時でも医療関係者と円滑な関係性を築いている。外部の病院でも同様に連絡は密に取っている。	入院時には介護サマリーを持参している。また家族、入居者の希望も聞き、病院担当者と直接会って情報交換を行っている。退院時には看護サマリー、医師のアドバイスにより、元の生活にスムーズに戻るようしている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療関係、施設側で話し合う場を持ち、現時点での意向、方針を終末期のケアプランに上げ、チームで共有。関係者とも連携を取りながら穏やかな最期を迎えられるよう、チーム全員で最善を尽くしている。	契約時に「終末期の医療体制及び看取りに関する指針」により説明し、同意書を交わしている。状態に変化があった時には、医師、管理者から状態、指針を改めて説明を行い、家族が納得できるように意向を聞いて、チーム全員で最善を尽くしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「入居者救急時対応手順」を各フロアに配置し、いざというときの対応に備えている。事故が発生したら振り返りを行い、医師や看護師からのアドバイスを受け、対応方法を周知している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、日中、夜間の入居者、職員と避難経路の確認、消化器の操作方法の実践等行っている。水害等、2階に避難することも想定し、水や食料の備蓄もしている。	消防署に届け出て、年2回消防訓練を行う。入居者と共に避難経路の確認と水消火器を使つての消火訓練を行っている。裏山からの出水対策となる駐車場工事を今年行い、排水ポンプを3台備える等水害対策も進んでいる。災害時食料は3日分備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や感謝の気持ち等の礼儀はもちろん、排泄などのデリケートな部分では言葉を選び、自尊心を傷つけないよう配慮している。介護の質を高める為、ミーティングや勉強会でも振り返っている。	尊厳を大切にして、自尊心を傷つけないように配慮している。排泄時の声掛け、入浴時の羞恥心への配慮、誇りやプライバシーを尊重し、ミーティング、勉強会でも職員間で話し合い、振り返りを行っている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か言いたい、聞きたいなど、表情を読み取って話せる状況を作り、思いを言葉にしている。今日着る服や飲み物、入浴の時間等も本人と相談し、決めていただくよう配慮している。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を確認してから行動していただき、こちらの都合でお願いするにしても承諾を得ている。例えば午前の入浴で拒否があれば午後からを提案。それでも無理なら翌日に声掛けを行っている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容はもちろんお昼寝後の身だしなみも整えている。外出や家族会など特に配慮し、認知症でわからなくなっている方も身だしなみを整え、おしゃれをしていただいている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一緒に準備したり、職員が調理法がわからないときに入居者をお願いしてお手本を見せてもらったり、食に関わってもらっている。食事は生活の中で重要な役割を占めているので、その時間を大事にしている。	業者の調理済み料理を毎日提供しているが、時にはコープ宅配の食材等を利用して一品を加える。入居者も調理法アドバイスや準備等何らかの形で食事に関わる。アクティビティとして、菜園で収穫した野菜のカレーや恵方巻などの行事食を入居者と一緒に作る。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量と水分摂取量を手書きの表とパソコンで管理している。集計や前日比なども申し送って、個々の状態の把握に努め、必要な対応をしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日3回は口腔ケアをしていただくよう声かけし、自分でできない方には付き添い確認している。また、歯科医、歯科衛生士より指導を毎月受けているので、入居者に還元すべく実施している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	汚染による不快な思いを感じず快適に過ごせるよう、排泄チェック表を確認しながら、できるだけ事前にトイレ誘導を行っている。失敗しなければ気持ちが良いということを体感することで自立へ繋がればと努力している。	排泄チェック表を確認し、事前に誘導を行っている。日中は布パンツ、リハビリパンツを使用、夜間は紙パンツを使用し、ポータブルトイレは使用していない。膝関節痛の方も2人介助でトイレでの排泄支援を行っている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員、排泄の確認をしており、毎日申し送りで個々の状態を職員間で周知し、便秘の方がいればお通じに良いとされる飲み物や食べ物の提供をしたり、フロアを歩いたり、なるべく自然に排泄できるよう努めている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回は入浴していただくよう計画は立てているが、本人の体調や気分に応じて日を変えたり、午後からにしたり、声掛けも工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。	体調、気分に応じて日、時間を変えて希望を聞き週に2回入浴を楽しんでいる。同性介助で行い、入浴中の会話も楽しめるよう心掛けていて、長風呂する方もいる。また冬至のゆず湯等で季節を感じ、入浴剤も利用し楽しんでいる。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室で眠くなるまでテレビを観ている方や眠れずに食堂に出てこられる方等、個々によって習慣が違うので、思うようにしてもらっている。日中できるだけ活動の機会を設け、夜の安眠を図っている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をスタッフデスクに置いており、新しく処方された薬は特に使用後の変化についてしばらく記録をしっかりと取り、次回の受診日にドクターに報告している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の楽しかった頃の話や傾聴したり、編み物、縫い物等、主婦時代の得意なこと、かつての職業で身につけている作業、趣味のダンス等、力を発揮できる場を設け、少しでも楽しさを感じていただけるよう努めている。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ちょっと外に出たいと仰る方には職員が付き添える時間を見つネ一緒に近隣を散歩したり、買い物に行ったりしている。外出企画でどこに行きたいかを入居者に聞き取り検討することもある。ご家族に外出同行の声掛けも行っている。	希望に応じ近くのコンビニでの買物、カフェでのお茶等に同行する。大きな亀など見どころの多い散歩コースに複数でよく出かける等外気に当る機会は多い。車での遠出も企画し、花見や紅葉狩り、ショッピングモールでの外食、どうぶつ王国などに行っている。	毎月の写真入りはがきを利用し、散歩、外出の様子を伝え、理解を深めてもらう工夫をしてはいかがでしょうか。写真も動きが感じられるスナップを増やしてはどうでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い出しに付いてきてもらってレジで支払を担当してもらったり、コーヒーを買いに行きたいと希望があればコンビニと一緒に買って買い物してもらう等、本人の希望に合わせ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話をかけ、近況の報告や気になる事を伝えてもらっている。手紙は今は送りたいと仰る方がいないが、届いたはがきや手紙を読んで喜ぶ姿は見られている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮して環境を整えているつもりではあるが、陽の光が入って眩しい、エアコンの風が気になるなど指摘を受けることがあり、その都度対応している。体感が自身ではわからなくなっていることもあり、体調に関わってくるため留意している。	冬でも日ざしで明るく、温かい。次亜塩素酸水溶液を加湿器に加えて噴霧し湿度、衛生面の管理を行っている。壁には入居者の作品の水彩画や日本画、家族提供の芸術写真などが掲示されている。エアコンにより、適切な温度に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を設置しているので、CDプレーヤーの前に陣取って好きな音楽を聴く方や、本棚の前に椅子を持って行って読書される方もいる。話の合う入居者を居室に誘って談話を楽しむ方もおられる。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの馴染みの品である家族の写真やお仏壇、昔取ったお免状等を持ち込んでいただき、安心してくつろげる空間になるよう、ご家族にも協力してもらっている。	居室の入口は食堂、居間から見えず、ドアを閉めなくても落ち着く位置関係にある。広々とした清潔な空間に、ベッド、タンスは備え付けてあり、なじみの品が並べてある。懐かしい写真が飾ってある。小さな応接3点セットなら十分に置ける。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関先のポストにリハビリがてら階段を使って夕刊を取りに行き、他フロアに配達するなど、共同生活を送る上で役割のようなものを担ってもらっている。貼り紙や目印で目的地到着までのサポートもしている。		